



TITLE:

『京都大学高等教育研究』編集規定・投稿規定・表紙・目次・奥付

AUTHOR(S):

---

CITATION:

『京都大学高等教育研究』編集規定・投稿規定・表紙・目次・奥付.  
京都大学高等教育研究 2012, 18: 219-221

ISSUE DATE:

2012-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169728>

RIGHT:

京 都 大 学  
高 等 教 育 研 究  
第 18 号

---

京都大学高等教育研究開発推進センター

2012

# 目 次

## 第一部 論 考

### 研究論文

「教学 IR の一方略—島根大学の事例を用いて—」

雨 森 聡	島根大学教育開発センター	
松 田 岳 士	島根大学教育開発センター	
森 朋 子	島根大学教育開発センター	1

「ミクロ・マクロ経済学演習科目の教育効果に関する実証研究」

巽 靖 昭	東洋大学経済学部経済学科	
東 晋 司	東洋大学経済学部経済学科	
児 玉 俊 介	東洋大学経済学部経済学科	
佐 藤 崇	東洋大学経済学部経済学科	
澤 口 隆	東洋大学経済学部経済学科	11

### 実践報告

「学生生活と学業成績の関連性についての包括的調査—悉皆調査による学生指導資料作成に向けた実験的取り組み—」

上 崎 哉	近畿大学法学部	25
-------	---------	----

「リサーチリテラシーの育成による批判的思考態度の向上—「書く力」と「データ分析力」を中心に—」

林 創	岡山大学大学院教育学研究科	
山 田 剛 史	岡山大学大学院教育学研究科	41

### センター教員・共同研究者論考

「バカロレア哲学試験は何を評価しているか？—受験対策参考書からの考察—」

坂 本 尚 志	京都大学高等教育研究開発推進センター	53
---------	--------------------	----

「FD 活動支援に関するニーズの評価—関西地区 FD 連絡協議会 FD 実態調査 2012 から—」

高 橋 雄 介	京都大学高等教育研究開発推進センター	
大 塚 雄 作	京都大学高等教育研究開発推進センター	
斉 藤 有 吾	京都大学大学院教育学研究科	65

「パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて—」

松 下 佳 代	京都大学高等教育研究開発推進センター	75
---------	--------------------	----

## 第二部 記 録

### 「第 18 回大学教育研究フォーラム シンポジウム」

開会の辞	溝 上 慎 一	京都大学高等教育研究開発センター准教授……………	115
開会の挨拶	松 本 紘	京都大学総長……………	116
基調講演	「相互研修型 FD の総括—これまでとこれから—」		
	田 中 毎 実	京都大学高等教育研究開発推進センター教授／センター長……………	119
パネルディスカッション			
司 会	松 下 佳 代	京都大学高等教育研究開発センター教授……………	137
	溝 上 慎 一	京都大学高等教育研究開発推進センター准教授	
パネリスト 1	「『相互研修型 FD』のインパクト—三つの大学教育センターにおける FD 実践の省察から—」		
	山 田 剛 史	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授……………	138
パネリスト 2	「『相互研修型 FD の総括』へのコメント 関西地区 FD 連絡協議会の活動を中心に」		
	高 橋 哲 也	大阪府立大学高等教育推進機構教授／機構長・副学長……………	146
パネリスト 3	「京都大学センターによる相互研修型 FD と FD ネットワークの意義」		
	夏 目 達 也	名古屋大学高等教育研究センター教授……………	153
パネリスト 4	「相互研修型 FD の未来：国際連携・ICT 利用などを巡って」		
	飯 吉 透	京都大学高等教育研究開発推進センター教授……………	159
パネリスト 5	「大学教育の改革とファカルティ・ディベロップメント (FD)」		
	樋 口 聰	文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長……………	164
パネリスト 6	大 塚 雄 作	京都大学高等教育研究開発センター教授	

(所属等はフォーラム開催時)

### 日誌・業績

高等教育研究開発推進センター日誌 (2011 年 4 月～2012 年 3 月) ……………	179
高等教育研究開発推進センター組織 (2011 年 4 月～2012 年 3 月) ……………	193
高等教育研究開発推進センター教員業績 (2011 年 4 月～2012 年 3 月) ……………	195

### 『京都大学高等教育研究』規定

『京都大学高等教育研究』編集規定 ……………	219
『京都大学高等教育研究』投稿規定 ……………	219

## 『京都大学高等教育研究』編集規定

（平成 18 年 5 月 1 日改正）

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育研究開発推進センターが発行する研究誌である。
2. 本誌には、本センター関係教員の論考、共同研究の報告その他本センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する他、投稿論考を掲載する。ただし、投稿論考については、当分の間、次項に規定する編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものに限定する。
3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規定及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 投稿された論考の掲載および論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
7. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。ただし、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

（附則）本規定は、平成 18 年度発行の『京都大学高等教育研究』第 12 号から施行する。

-----

## 『京都大学高等教育研究』投稿規定

（平成 24 年 3 月 1 日改正）

（全般）

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとし、かつ、当分の間、編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものとする。この責任の範囲については、投稿の前に、編集委員会に問い合わせること。
2. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告、招待論文、センター教員・共同研究論考に区分される。「研究論文」は、学問的な手続きに基づいておこなわれた、高等教育に関する独創的・新規な研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考である。「研究ノート」は、高等教育研究への有益な資料となる論考である。「実践報告」は、高等教育研究への示唆となる、高等教育に関する実践の報告である。「招待論文」は、編集委員会が寄稿を依頼した論考である。センター教員・共同研究論考は、センターの専任教員の論考もしくはセンターの共同研究に関わる論考である。
3. 論考は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考を投稿する場合、研究論文、研究ノート、実践報告のいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。
5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考は原則として日本語あるいは英語を用いて作成すること。
7. 原稿は原則として以下の作成要領により、ワープロソフトによって作成するものとする。ただし、センター教員・共同研究論考の分量については、この限りではない。

〈日本語の場合〉

- ・ A4 版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
- ・ 40 文字×25 行の 1,000 字を 1 頁とし、20 頁以内の分量とする（図表、注、参考文献を含む）。
- ・ 題名の後に題名の英訳及び英文 200 語程度の要約を付すこと。
- ・ キーワードを日本語・英語それぞれ 5 つ以内であげること。

〈英語の場合〉

- ・ A4 版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
- ・ 300 語程度を 1 頁とし、20 頁以内の分量とする（図表、註、参考文献を含む）。
- ・ 200 語程度の要約を付すこと。
- ・ キーワードを 5 つ以内であげること。
- ・ フォントは Times New Roman とし、サイズは 12 ポイントとする。

8. 原稿 1 部を編集委員会に提出する。また、別紙として、氏名（ふりがな）、所属（職名その他を含む）、連絡先（郵便番号、住所、電話番号）、希望区分（研究論文、研究ノート、実践報告のいずれか）を記入した用紙を添付する。

（用語）

9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。ただし、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

（注・引用文献）

11. 注及び引用文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、注のあとにまとめてアルファベット順に記載する。論文の場合は、著者、発行年、文献題目、雑誌名、巻号、頁の順に記載する。単行本については、1 冊を引用対象とする場合、著者、発行年、書名、発行所の順に記載し、一部分を引用する場合には、著者、発行年、引用部分の題目、編者、書名、発行所、頁の順に記載する。なお、訳書の場合は、原書の著者名、原書発行年、原書名、原書発行所名を書き、その後に、著者名の日本語表記、訳書の発行年、訳書名、訳者名、訳書の発行所名の順に記載する。なお、句読点、カッコ、斜体等については下例を参照のこと。

〈例〉

①論文

田口真奈 (2007). 「高等教育における IT 利用実践研究の動向と課題—e ラーニングと遠隔教育を中心に—」『京都大学高等教育研究』13 号, 89-99 頁.

Dall'Alba G., & Barnacle, R. (2007). *An ontological turn for higher education. Studies in Higher Education*, 32(6), 679-691.

②単行本

田中毎実 (2003). 『臨床的人間形成論—ライフサイクルと相互形成—』勁草書房.

京都大学高等教育研究開発推進センター (編) (2003). 『大学教育学』培風館.

松下佳代 (2010). 「〈新しい能力〉概念と教育—その背景と系譜—」松下佳代 (編著)『〈新しい能力〉は教育を変える—学力・リテラシー・コンピテンシー—』ミネルヴァ書房, 1-42 頁.

Hermans, H. J. M. (1995). From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer, & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy* (pp. 247-272). Washington, DC: American Psychological Association.

Hermans, H. J. M., & Kempen, H. J. G. (1993). *The dialogical self: Meaning as movement*. San Diego: Academic Press. ハーマンス, H.・ケンペン, H. (2006). 『対話的自己—デカルト／ジェームズ／ミードを超えて—』(溝上慎一・水間玲子・森岡正芳訳) 新曜社.

12. 引用文献と注を区別し、注は本文中の該当個所に、上付き文字で (1)、(2) ……と指示し、論考末尾にまとめて記載する。

13. 引用文献は、本文中では、著者名 (出版年)、あるいは (著者名, 出版年) として表示する。同一著者の同一年の文献については、a, b, c, ……をつける。

〈例〉

- ・田中（1995a）が強調するように
- ・……という調査結果も提示されている（田中，1996）。

（その他）

14. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし掲載誌2部と抜き刷り30部を贈呈する。なお、抜き刷りについては、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。

15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。

①原稿締切日：8月31日

②提出書類：

a. 論文本文

b. 『投稿時の確認について』（当センター HP <http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/index.html> 内『京都大学高等教育研究』編集規定 [http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/journal\\_kitei/index.html](http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/journal_kitei/index.html) よりダウンロードし、投稿条件の確認、署名の上提出してください。）

③提出方法：上記の2つの提出書類を以下のいずれかの方法で提出してください。

紙媒体または電子メールのいずれかで

・紙媒体：印刷出力1部、消印有効

・電子ファイル：23時59分まで

＊ただし、3日以内（土日祝祭日含まず）に受領返信メールが届かなければ、お問い合わせください。

④提出先

・紙媒体：〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学高等教育研究開発推進センター  
『京都大学高等教育研究』編集委員会

・電子ファイル：[kiyou@highedu.kyoto-u.ac.jp](mailto:kiyou@highedu.kyoto-u.ac.jp)

16. 掲載された論考の著作権は京都大学高等教育研究開発推進センターに属する。

17. 本規定の改正は編集委員会が行う。

（附則）本規定は、平成24年度発行の『京都大学高等教育研究』第18号から施行する。

#### ■問い合わせ先

『京都大学高等教育研究』編集委員会

[730center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:730center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

（メール送信の際、件名に「京都大学高等教育研究についての問い合わせ」とお書きください。）

『京都大学高等教育研究』第18号 編集委員会

編集委員長	松 下 佳 代	
編 集 幹 事	田 川 千 尋	
編集協力者	大 塚 雄 作	飯 吉 透
	溝 上 慎 一	田 口 真 奈
	酒 井 博 之	高 橋 雄 介
	坂 本 尚 志	

平成24年11月30日 印刷

非売品

平成24年12月 1 日 発行

発 行 京都大学高等教育研究開発推進センター  
京都市左京区吉田二本松町（〒606-8501）  
TEL 075-753-3087  
FAX 075-753-3045

印 刷 中西印刷株式会社  
京都市上京区下立売通小川東入ル  
TEL 075-441-3155



# Kyoto University Researches in Higher Education

vol. 18

## CONTENTS

### I Articles

#### Papers

- One Strategy of Institutional Research for Faculty Development:  
Focused on the Area of Teaching and Learning..... Satoshi AMENOMORI  
Takeshi MATSUDA  
Tomoko MORI
- An Empirical Study on the Effect of Second-year Undergraduate Microeconomics  
and Macroeconomics Exercise Courses ..... Yasuaki TATSUMI  
Shinji AZUMA  
Shunsuke KODAMA  
Takashi SATO  
Takashi SAWAGUCHI

#### Reports

- Relations between Living Conditions of Students and School Achievement ..... Hajime UESAKI
- Improving Critical Thinking Disposition by Teaching Research Literacy:  
Focusing on Academic Writing and Data Analysis Abilities ..... Hajimu HAYASHI  
Tsuyoshi YAMADA

#### Articles by Center Staff and Research Fellows

- What does the French Baccalaureate Test in Philosophy Evaluate?:  
A Study on Self-learning Books for High School Students ..... Takashi SAKAMOTO
- Assessment of Needs for Supporting Faculty Development Activities:  
A Survey by Kansai Faculty Development Association in 2012 ..... Yusuke TAKAHASHI  
Yusaku OTSUKA  
Yugo SAITO
- Assessment of the Quality of Learning Through Performance Assessment:  
Based on the Analysis of Types of Learning Assessment..... Kayo MATSUSHITA

### II Documents

- 18th Kyoto University Conference on Higher Education: Summarizing Mutual Faculty Development
- Opening Address ..... Shinichi MIZOKAMI
- Opening Message ..... Hiroshi MATSUMOTO
- Keynote Presentation ..... Tsunemi TANAKA
- Symposium
- Chairpersons ..... Kayo MATSUSHITA  
Shinichi MIZOKAMI
- Response 1 ..... Tsuyoshi YAMADA
- Response 2 ..... Tetsuya TAKAHASHI
- Response 3 ..... Tatsuya NATSUME
- Response 4 ..... Toru IYOSHI
- Response 5 ..... Satoshi HIGUCHI
- Response 6 ..... Yusaku OTSUKA
- Discussion

---

CENTER FOR THE PROMOTION OF EXCELLENCE IN HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2012